

理事会議事録

日 時：2004年7月3日(土) 11:00～16:55

場 所：国立天文台三鷹大会議室

出席者：松田，祖父江，杉山，郷田，関井，松原，土橋，田，蜂巢，谷口，栗木，花見

欠席者：若松

有効委任状提出者：土居，佐藤

その他オブザーバーとして，百瀬宗武氏，成相恭二氏，事務局より東條事務長が出席した。

議事に先立ち，議長および署名人を選出した。

議 長：松田卓也

署名人：杉山直，郷田直輝

報 告

1. 前回議事録の確認(資料1)

杉山理事より前回(2004年3月22日)の理事会議事録が報告され，原案通り承認された。

2. 2004年秋季以降の年会について

花見理事より，部屋の割り振りや天文月報への案内等の秋季年会の準備状況について説明があり，注意事項について意見交換が行われた。続いて成相氏より，2005年春の年会について，部屋や設備，公開講演会などの準備状況について説明があった。

3. 大学入試センター試験「地学」出題方式に関する要望書について(追加資料)

杉山理事より，要望書作成の経緯と内容の説明があった。2006年度以降，大学入試センター試験において，地学Iと物理Iを同時に選択することができなくなることにに関して，日本天文学会も協賛している地球惑星科学関連学会合同大会参加20学会会長・理事長名により，大きな危惧を抱いていることの表明と，合わせて制度の改変を求める声明文を，文部科学大臣宛に送付する。

4. その他

(ア) 男女共同参画協会連絡会(追加資料)

天文学会も協力したアンケートの結果が資料としてまとまったので，披露された。

(イ) 100周年記念出版事業第一次案について

祖父江副理事長より，第一次案が出来上がったこととその内容について説明があり，若干の修正意見などが出された。修正された第一次案について，日本天文学会会員に向け広くアンケートを行うが，その方法に関しては，天文月報に差し込むと同時に，tennetで配布することとなった。

(ウ) 財務規程案についてほか，会計担当理事からの報告

関井理事より，前回理事会にて承認され，評議委員会では時間がなかったため議論されなかった財務規程案について，次回の評議員会に前回と同じ案を提出することの報告があった。つづいて日本天文学会が納めるべき消費税に関して，これまで手違いで納付されていなかった2002年度，2003年度分を納めたことの事情説明があった。最後に，院生に関する旅費補助について，秋に若手代表からの申し入れが来る予定であるとのこと。

(エ) 日本衛星フォーラム

松田理事より、同フォーラム実行委員会にオブザーバーとして参加したことの報告があった。次年度からの日本天文学会への正式な参加依頼が行われる見通しである。

議 題

1. 新入会員の承認(資料2)

杉山理事より、資料に基づき、新会員の入会が承認された。合わせて、退会者の報告があった。

2. 新役員候補者(資料3)

松田理事長より、実務理事会の審議を経た新役員候補者が披露され、理事会として承認した。

3. 新選挙管理委員候補者(資料4)

松田理事長より、新選挙管理委員候補者が披露され、理事会として承認した。

4. 各種委員会新委員候補者(資料5)

松田理事長より、各種委員会新委員候補者が披露され、理事会として承認した。ただし、年会実行委員会委員候補者であった吉川 真氏については、後の議案でジュニアセッション実行委員会を新設し、その委員長となることを理事会として承認したために、年会実行委員会からははずれること、併せてその場合には当該委員会の委員数を11名から10名に減員することを認めた。

5. 2005年度事業計画書案(資料6)

杉山理事より2005年度事業計画書案が説明され、質疑応答の後、承認された。

6. 2005年度収支予算書案(資料7)

関井理事より2005年度収支予算書案が説明され、質疑応答の後、承認された。

7. 新事業について(追加資料)

祖父江副理事長からの提案に基づいて意見交換を行い、次の6項目の新提案がまとめられ、評議員会に諮ることとなった。

(1) 日本天文学会百周年記念事業、その内容としては百年史編纂、記念切手発行、記念式典などが考えられる。

(2) 欧文研究報告月刊化に向けて購読料減額、または無料キャンペーンを行う

(3) 学会事務所住環境の改善。

(4) 学会事務所建物新設。

(5) コンベンションセンターの活用などによる年会会場に対する支出。

(6) 会費値下げ。例えば、正会員(学生)の会費を3,000円減額し、10,000円にする。

ここで、(3)と(4)は、採用する場合にも、どちらか一方である。なお、教育普及講師派遣と欧文研究報告編集局局員の定員化については、すでに決定済みである。

8. 年会運営について(資料8)

福井評議員より、年会運営の方法について次の2点の提案があった。1つめは、年会実行委員会が、現状では企画セッションの採択の可否を行うなど、単なる実務的な役割を越えてSOCとしての役割を果たしているが、負担も大きいと考えられるので、この機会に年会運営の問題点を整理し、ガイドラインなどを示す必要があるのではないか、という提案であった。2つめは、林 忠四郎賞受賞者が受賞記念講演を年会中に行うべきである、という提案であった。前者について、現状は機動性を重視しているのであまり代えたくないという意見が、百瀬年会実行委員から出された。その後意見交換を行い、企画セッション、特別セッションについて、締め切りを早めることで、一つ前の年会中

の理事会に年会実行委員会から提案、その場で審議し決定する、という方法が提案され、評議員会に諮ることとなった。年会の進むべき方向については、今後も議論をし、ガイドラインなどの制定をすることは必要である、との意見が出された。2つめの提案に関しては、林 忠四郎賞、研究奨励賞のどちらか、又は両方とも、発表を現在の春から秋の年会に移し、総会后、受賞記念講演を行う方向が決定された。今年度(2003年度)の林賞については、発表、受賞式はすでに終わっているが、記念講演会を秋の年会中に行うことが可能であるか、年会実行委員会で検討することとなった。

9. ジュニアセッション実行委員会設置について(資料9)

杉山理事より、標記委員会(日本天文学会の内規上は小委員会)新設に関する説明があった。現状では、年会中でのジュニアセッションはボランティアを中心に運営されている。その運営の母体を、正式な小委員会として認定したいという提案である。ジュニアセッション実行委員会に関する内規の制定、及び関連する内規(日本天文学会委員会等に関する共通内規等)の改正も含めて、承認され、評議員会に諮ることとなった。

10. プラズマ宇宙物理に関する共催セッションについて(資料10)

杉山理事より、事情説明があった。日本物理学会領域2(プラズマ物理関連分野)のアドバイザーボードからの提案で、日本物理学会、日本天文学会、日本地球電磁気・惑星圏学会において、交互にプラズマ宇宙物理に関する共催セッションを開きたい、という要望である。検討会に出席した百瀬年会実行委員より、詳しい説明があった。天文学会としては2005年の10月、または2007年の9月のどちらかで共催を引き受けたいこと、具体的な事務に関する合意としては、講演者に関しては世話人が集める、講演する人は非会員であったとしても、ホスト学会の人と同等の資格でその年の年会に参加できるように計らう、などである。意見交換を行った結果、日本天文学会としては、企画セッションとほぼ同等のものであり、講演数の増加に関しては、現在行われているものより一日に限りパラレルセッションの数を一つ増やすことで対応できるのではないかということで、とりあえず、一回共催セッションを行ってみることを合意した。

11. 2004年秋季総会議題(資料11)

杉山理事より資料に基づいて提案があり、了承された。

12. その他

(ア) 欧文研究報告の翻訳に対する著作権について(追加資料)

欧文研究報告に掲載された論文を日本語に翻訳し、一般に公開したい、との希望が会員よりあり、蜂巢編集委員長が対応した経緯について説明を行った。自分自身の論文を日本語に翻訳したい、とい希望ではあったが、原文がネットワーク上での閲覧に関してアクセス制限がかかっている最近3年以内のものであることから、翻訳して自由に外からみることのできる状態にすることは望ましくない旨を伝えた。アクセス制限がかかっていない古い論文については、本人のものであれば、翻訳することを認める。その後、著作権法についての説明が蜂巢理事よりあった。現在の欧文研究報告、及び天文月報の掲載論文・記事に対する著作権に関する記述は「すべての著作権は学会に帰属する」となっている。しかしこの記述では、翻訳権・翻案権、および二次的著作物の利用に関する権利が、日本天文学会側にあるかどうか明確ではないので、今後、著作権に関する表示や対応の見直しを行うこととなった。

(イ) 望遠鏡の寄贈について

本会元通常会員、太田彬(故人)氏未亡人より5台の望遠鏡の処分について相談があった。杉山理事が、対応することとなった。

(ウ) 次回は9月21日(火)、秋季年会会期中の昼休み岩手大学で開催することとなっ

た.

2004年7月20日

議長 松田卓也 印

署名人 杉山 直 印

署名人 郷田直輝 印